

小松電機産業

インターネットで上下水道制御

コスト削減 新システム開発

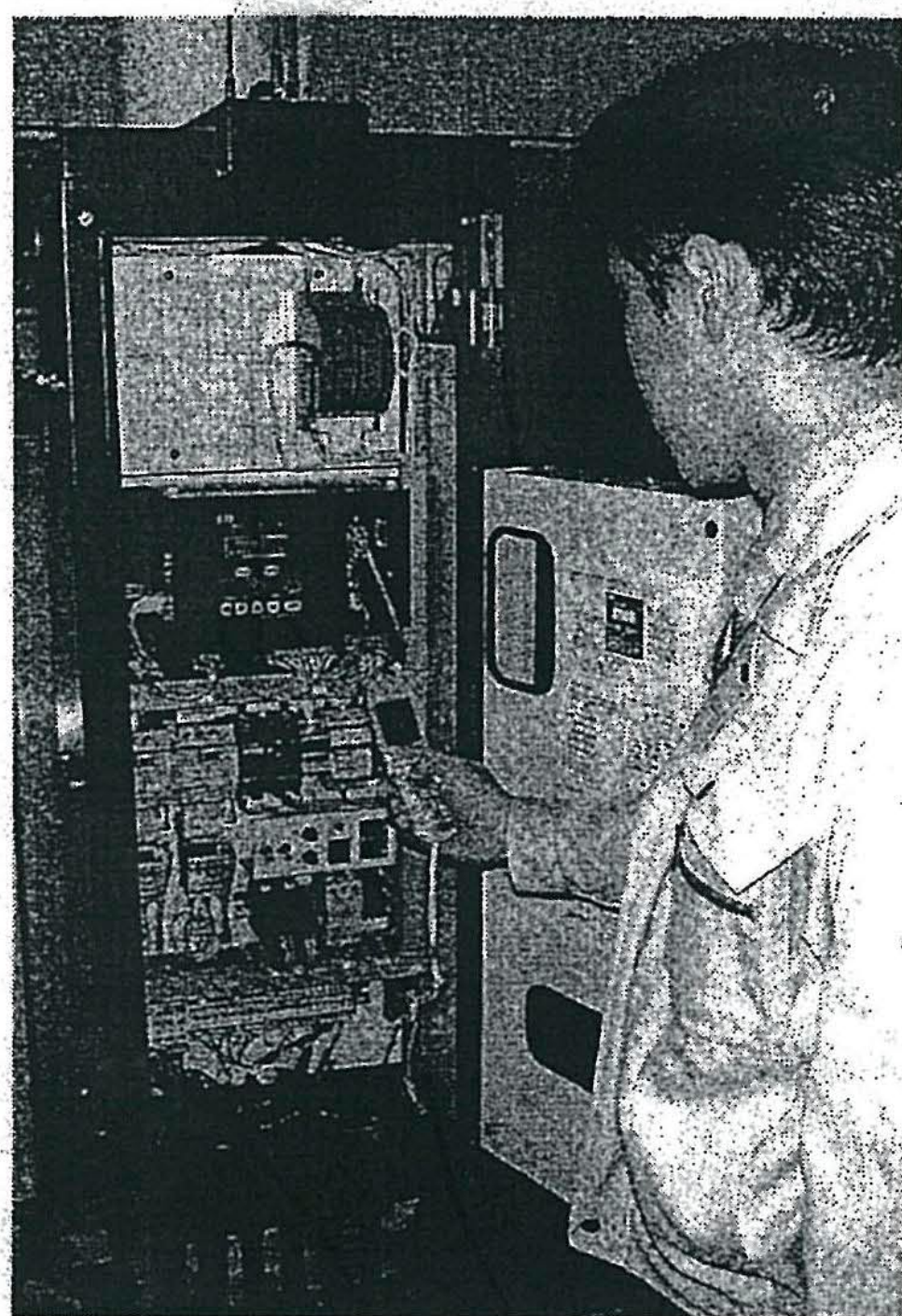
小松電機産業(松江市乃木福富町、小松昭夫社長)は、インターネットを使って上下水道処理施設の制御、監視ができるシステム「新水神ネットワーク」を開発、発売した。携帯電話やパソコンで現場以外から施設の状態や運用データが確認できるほか、機器故障などの緊急連絡を電子メールで担当者に配信する。同社は「中央監視装置が不要になり、施設管理のコストが削減できる」としている。

新開発のコントローラーの運転、制御、監視のデータ通信サービス内蔵制御盤で中継ポンプ場々を一括管理。NTTドコ(Dopa網)を通じ、小

松電機産業本社内のデータセンターに集積する。

パソコン、iモード携帯電話からのアクセスが可能。施設状況を確認しながら、ポンプの遠隔操作ができるほか、故障、中継ポンプ槽満水などのトラブル情報を受信することもできる。施設ごとの運転データは、同センターに定期的に集まり、解析後、ホームページで確認することができる。

制御盤のコントローラーは、同社とニッポ電気島根横田工場(島根県横田町、



新開発のポンプ制御盤。インターネットを使い、中継ポンプ場の運転、制御、監視のデータを一括管理できる

今岡潔工場長)が共同開発。同制御盤は、耐久性抜群のステンレス製で、熱や雷にも強い。標準タイプの大きさは、高さ百二十センチ、幅四十五センチ、奥行三十四センチ。

これまでに島根県内の二市村から受注。岡山県、山口県の町でも設置計画が進んでいる。昨年十一月、千葉県で開かれた「農林水産環境展」に出展したのをきっかけに全国から問い合わせがあり、栃木県小山市などではデモンストレーションを行った。

小松社長は「IT(情報技術)を使い、経済性、機能性の向上を実現したシステム。今後も水にかかわる快適な環境を提供することができるシステムの開発、研究を重ねていきたい」と話している。